

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

様式1（小・中）

学校名	鹿島市立古枝小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各評価項目の実現を目指して、やる気部、優しさ部、元気部の3つのプロジェクトチームを組織し、全教職員が一体となって実践に取り組んだ結果、どの項目も目標を達成することができた。中でも、「表現力・思考力・活用力の向上」「児童生徒が豊かな心を身に付ける教育活動」「いじめの早期発見、早期対応体制の充実」「特別支援教育の充実」「運動習慣の改善や定着化」の5つの取組内容については、学校並びに学校関係者による評価で、共にA評価となり、大きな成果を得ることができた。 業務改善・教職員の働き方改革の推進については、年間を通して教育活動の精選を行い、業務改善・効率化を進めたり、時間外勤務が多い職員には管理職から声かけを行ったり、働き方改革の具体的な方法を話し合ったりしたことで、時間外平均勤務時間数を昨年度よりさらに減少させることができた。今後も、児童と向き合う時間を確保し、充実した教育活動を実現するために、家庭・地域と連携を図りながら進めていく。 地域と共に創る学校づくりの推進については、地域コミュニティ会議等の各種関係団体と活動方針について十分に共通理解を図りながら、学校と地域・家庭との連携・協働による教育活動や夢を育む教育活動の充実を実現すると共に、学校だより、学校ブログ、ケーブルテレビ等を活用した情報発信を積極的に行ったことで、保護者はもちろん地域住民の多くの方々に取組内容が周知され、保護者や学校関係者から高い評価を得た。今後も引き続き、ふるさと古枝を誇りに思い、大切に児童を育成するために、取組の充実・発展を図っていく。

2 学校教育目標	かがやけ！「古枝スピリッツ」～ “やる気・優しさ・元気” いっぱい
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①【やる気】「確かな学力」の向上を果たす教育活動を推進する。 ②【優しさ】「豊かな心」を育む教育活動を推進する。 ③【元 気】健康安全な生活を送り、体力の向上を果たす教育活動を推進する。 ④【特色ある学校】地域と共に創る学校づくりを推進する。 ⑤【働き方改革】働き方改革を推進する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	B	・マイプランの成果指標がほぼ達成していると回答した教師の割合は、全体の約42%であった。児童の実態に即したマイプランや成果指標を見直し、取組を継続していきたい。	A	・児童の実態に即したマイプランや成果指標を見直し、様々な手立てを講じて取り組みを継続した結果、成果指標をほぼ達成することができたと回答した教師の割合は約88%であった。	A	・様々な体験活動を通して、子どもたちに自主性や探求心を持たせる指導がなされ、その結果として成績の向上にもつながっている。今後もこの取組を続けていってほしい。		
	○表現力・思考力・活用力の向上	○問題を読み取るための課題を解決することができた児童70%以上	A	・問題を読み取る力を上げるために、以下各学年の実態に応じた課題を設定し、積極的に取り組む。 1. 文章がすらすらと読める 2. 本を読んで感想が言える 3. いろいろな言葉の意味が分かる(語彙力) 4. 条件をもとに文章が書ける 5. 図表やデータから必要な情報を探することができる 6. 文章を読んで、尋ねられていることを探することができる 7. 文章を工夫して整理し、問題の意図を考えることができる	A	・問題を読み取る力を高めるために、各学年の実態に応じた課題を設定し、具体的手立てを講じるようにした。中間評価の結果としては、課題を解決することができた児童が全体で90%以上で、良好な進捗状況がみられた。今後も継続して課題に取り組んでいく。	A	・様々な体験活動を通して、「地域とともに創る学校づくり」が実現できている。その結果、子どもたちの自己肯定感や自己有用感、自己効力感が高まり、学力の大きな向上にもつながっている。 ・少人数(15～20人)の学級で授業が行われれば、今以上にきめ細やかな対応ができると思う。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育	○自分の良いところを認めることができる児童が90%以上 ○自分は、友だちから認められていると思う児童が65%以上	B	・「自分の良いところを認めることができる児童」は87%で、「自分は、友だちから認められていると思う児童」は80%であった。今後人権集会等を通して、互いに認め合う活動を意図的に仕込んでいきたい。	B	・「自分の良いところを認めることができる児童」は88%で、「自分は、友だちから認められていると思う児童」は82%であった。意欲的な回答をした児童はやや増えたが、目標数値には至っていないので、次年度も継続した取り組みが必要である。	A	・地域の方々との交流や活動を通して、人の役に経験や人から認められる経験ができていく。その積み重ねが自己肯定感につながり、互いに認め合う関係づくりにもつながっていくと思う。		
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校で楽しく過ごしている児童が90%以上	A	・「学校で楽しく過ごしている児童」は、91%であった。達成できたが、その一方、楽しく過ごせていない児童がいることから、その児童の困り感を解消するために、引き続き職員間で連携して指導・支援を行っていききたい。	A	・「学校で楽しく過ごしている児童」は、93%であった。学校で楽しく過ごしている児童が増えたことは、取組の成果だと考える。	A	・いじめに関しては、軽微な事案に関しても迅速に対応することができている。何かあったら様子を見るのではなく、すぐに対応することが重要である。「大きくとらえて小さくまとめる」を合言葉に。		
	○特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する専門性が向上した教師が90%以上	A	・巡回相談を実施し、有効的な指導や支援の在り方について意見をいただき、実践につなげることができた。また、職員研修では、インクルーシブ教育についての講義や演習を通して知識を深め、スキルが向上した職員が90%以上であった。 ・配慮を要する児童については、毎週の職員連絡会で共通理解を図ることができた。	A	・特別支援学級で自立活動の研究授業を行い、研究会で特別支援教育について全職員で理解を深めることができた。研究会では、配慮を要する児童の特性や特別支援教育における指導・支援の在り方についての知識を深めるために、講師から助言や講話をして頂いた。研修を通してスキルが向上したと回答した職員が90%以上であった。	A	・古枝ふれあい祭りにおいて、子どもたちが自分の役割や出番、受け持ち分の発表に対し、自信をもって取り組んでいた。 ・常に子どもたちの実態を考慮し、子どもたち中心の運営方針が具現化されている。		
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●1週間に運動やスポーツを行う児童が1週間に420分以上の児童60%以上	A	・校内研究の各取組を通して、児童に運動のもつ特性や楽しさに触れさせ、運動に対する関心を高める。 ・体育的行事や委員会活動、縦割り活動を通じた運動に親しむ機会をつくらせ、引き続き取り組んでいきたい。	A	1週間の運動時間が420分を越える児童が82%であった。体育の授業で、運動が苦手な児童も楽しめるように単元を考えた上、体育的行事や縦割り活動を通して運動に親しむ機会をつくらせ、引き続き取り組んでいきたい。	A	・運動面に限らず、よい意味で、競争心を育む教育活動にも今後期待したい。		
	○望ましい生活習慣の形成	○健康に早寝・早起きは大切であると捉え、決めた(決められた)時間までに寝ること、起きることができた児童85%以上	B	・家庭との連携の下、生活カレンダーを活用し、毎日の生活を振り返らせる。また、月に1回アンケートを取り、自己の生活について振り返らせ、実践意欲を高める。必要に応じて個別に聞き取りを行ったり、言葉かけをしつづける。 ・児童の実態について保健便りや学級通信を通して保護者に伝え、必要に応じて家庭生活の見直しを促し、早寝・早起きの大切さについて啓発を図る。	B	・早寝・早起きが大切だと捉えている児童は93%であったが、実際にできている児童は70%であった。養護教諭から保健便りを通して、早寝・早起きの大切さや、早く寝るための方策としてSNSの利用時間を制限することなど、家庭への啓発を行っている。今後は、学級通信等においても家庭への呼びかけを継続し、実際に早寝・早起きができる児童の割合を増やしていきたい。	B	・携帯やスマホ、ゲームが要因となる生活リズムの乱れが問題視されている。保護者にも課題意識をもたせ、学校、地域、保護者が連携を図りながら、生活習慣の改善に取り組んでいく必要がある。		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・自己の勤務時間の把握と管理のために、日々の業務記録を確実に行う。 ・勤務終了時刻を19:00とし、各自が終了時刻を意識できるよう、勤務終了時刻30分前から職員室のモニターを用いて予告のメッセージを流す。 ・各個人が週1日を定時退勤日として設定し、定時退勤ボードにネームプレートを貼付することで意識付けを図る。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均は20.7時間で、教育委員会規則に掲げる上限を大幅に下回っている。また、ほとんどの職員が勤務終了時刻である19:00には退勤することができおり、勤務時間の管理とタイムマネジメントに対する意識が向上している。	A	・2月末時点での全職員の時間外勤務時間の平均は21.0時間で、教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守することができた。その結果、ほぼ全職員が勤務終了時刻の19:00までに退勤することができおり、働き方改革への意識が高まった。	A	・授業の準備など、先生方の負担が大きいのではと心配している。 ・先生方自身が自分の働き方を見直すとともに、ゆとりある環境づくりに努めることが、学校運営にもよい影響をもたらすものとする。
	○自己の働き方に対する意識改革の実現	○自己の働き方に対する意識改革が実現できた職員100%	B	・ワークライフバランスの実現に向け、講師招聘等による研修会を実施する。 ・自己の業務内容の見直しや仕事のタイムマネジメントに視点を当て、ワークライフバランスを実現するための自己目標を設定する。また、10月と1月に目標についての振り返りを行い、各自の意識改革につなげるようにする。	B	・ワークライフバランスについての研修の場を設け、自己の働き方についての振り返りを行うとともに、自己目標シートを作成した。時間外勤務の縮小化がみられることから、タイムマネジメントへの意識化が進んでいることがうかがえる。今後は時間的なゆとりだけでなく、生活全般における充実感や達成感につながるような働き方を行っていききたい。	A	・自己の働き方に対する意識改革が実現できた職員は100%で目標を達成することができた。タイムマネジメントに取り組むながら、職場での働き方を意識し、バランスのとれた生活が実現できつつある。	A	・長年続くコロナ禍中、難しい対応に迫られる場面が多々あったと思うが、教職員のチームワークで様々な行事や学校の教育活動が大過なく実施されている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
○地域と共に創る学校づくりの推進	○学校と地域が一体となった多様な体験活動の推進	○「学校は、地域と一体となった多様な体験活動に等に積極的に取り組み、子どもたちの豊かな心を育てている」と回答した保護者や学校関係者85%以上	A	・昨年度までに積み上げてきた体験活動を基盤として、地域の関係団体やPTAと連携を図りながら、多様な体験活動を計画的に進めることができた。また、5年生の「田島勝爾学習会」など、地域の資源(ヒト・モノ・コト)を生かしながら、内容をさらに深化させる学習にも取り組んだ。	A	・「学校は、地域と一体となった多様な体験活動に等に積極的に取り組み、子どもたちの豊かな心を育てている」と回答した保護者は96%、学校関係者は97%で、学校と地域が一体となった体験活動の推進ができた。	A	・地域の声を取り入れ、人材を生かしながら、よい活動ができていく。また、体験学習により子どもたちの心が動くような教育が実現できている。 ・地域と連携した学校運営ができており、すばらしい教育活動の積み重ねができていく。
	◎夢を育む教育活動の推進	◎「将来の夢や目標を持っている」「人や社会の役に立つ人間になりたい」と回答した児童85%以上	A	・学びを社会につなげるために、公共的な活動や事柄へ積極的に参加させると共に、自分の夢や目標の実現を目指して意欲的に取り組もうとする態度を育む教育活動の充実を果たす。	A	・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は89%、「人や社会の役に立つ人間になりたい」と回答した児童は96%で、目標を上回る結果であった。様々な体験活動や地域との交流を通して、自己有用感や自分の夢実現に向けての意識が向上したものと考える。	A	・米作りや伝統芸能などの体験活動による課題探求型学習が、ふるさとへの愛着を深め、社会の役に立とうとする人間形成につながっていると思う。 ・異世代間交流をとおして地域社会とかがわっていき取組を今後もぜひ継続して欲しい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が学力向上を目指し、課題の改善に向けて具体的手立てを講じてきた結果、どの学年も学力の向上が見られた。今後は実態分析と課題の洗い出しを行い、全職員で共通実践に努めていきたい。 心のアンケートや観察等をもとに職員間で情報共有を行い、気になる児童の状況やいじめ事案について、早期発見・早期対応ができた。今後も、児童が自分の生活をよりよくしていくようとする意識を高めることができるよう、心の教育についての組織的な取組を継続していききたい。 職員の働き方についての意識改革を推進したことで、時間外勤務の平均時間の減少へとつながった。今後も、さらに児童と向き合う時間を確保し、充実した教育活動ができるよう、家庭・地域と連携を図りながら進めていく。
----------------	--